

# 奨学基金5万円手交と市長との懇談

## 奨学基金手交

1月30日午前10時、佐藤会長が千歳市役所本庁舎を訪れ、慣例の奨学基金5万円を佐藤教育長立会いのもと横田千歳市長に手交した。市長から感謝の言葉が述べられ、これを受けて会長が会勢の現状について簡単に説明した。

## 交通障害と空港開港

続いて、1月25日の大雪によりJR千歳線が長時間運休し、空港ターミナルに3日間で延べ約1万人が滞留する原因となった



千歳・札幌間の交通アクセスや除雪体制について意見交換を行い、丘走路延長や新千歳管制塔を現管制塔より700m南側に建設し移転する計画も話題に上った。

また、10月22日に空港開港100周年を迎えるにあたり、記念行事の一環として野外音楽フェス【FLY HIGH fes. 2026】を2回開催する計画であること、さらに9月に開催予定の航空祭へのブルーインパルス派遣を千歳市として航空幕僚監部へ要請したことが伝えられた。

併せて、F-135Aの配備とそれに伴う施設整備、自衛官の階級や名称等の呼称を国際標準化する取り組みなどの話題にも触れ、会長は、幹部の階級章は呼称変更に伴い刷新される可能性が高く、職種や部隊の呼称も「要撃」は「迎撃」、「普通科」は「歩兵科」などへ変更される見通しであり、今回の方針は英語表記との整合性を重視したものであると説明した。

## F-135配備と階級呼称見直し

併せて、F-135Aの配備とそれに伴う施設整備、自衛官の階級や名称等の呼称を国際標準化する取り組みなどの話題にも触れ、会長は、幹部の階級章は呼称変更に伴い刷新される可能性が高く、職種や部隊の呼称も「要撃」は「迎撃」、「普通科」は「歩兵科」などへ変更される見通しであり、今回の方針は英語表記との整合性を重視したものであると説明した。

さらに、会長がシリコンシールド(半導体産業は良質な水と空気を必要とし、施設および周辺環境が武力攻撃で汚染されれば生産が不可能となるため、この技術を必要とする侵襲勢力は武力行使をためらい、結果として安全保障を支えるという概念)について述べたことを受け、話題は国産次世代半導体企業ラピダスの雇用や住民登録数へと広がり、和やかに懇談を終えた。後に会長は、実に有意義な懇談であったと振り返った。



# 操縦者等冬季水上保命訓練

## 千歳川で保命訓練

2月4日、千歳川(青葉公園内ダイナックスアリーナ前)において、令和7年度「千歳基地操縦者等冬季水上保命訓練」が実施された。当日の気温は3度、水温は2度。北海道勤務が初めてとなる初任操縦者を中心に約30名が参加した。

## 訓練場所の変遷と安全管理

かつて本訓練は、水深のある日の出橋下流で実施されていたが、安全性を考慮し、現在は浅瀬へと



場所を移して継続されている。日の出橋下流で訓練を受けた救命浮舟に辿り着くまでに、「耐水服の襟口から水が入ってきた」との声も聞かれ、当時の厳しい環境がうかがえる。

また、河川使用にあたっては札幌建設管理部千歳出張所への申請に加え、千歳市に対し「青葉橋欄干への係留許可」を申請し、千歳さけます事業所にも問い合わせを行ったようだ。これは、以前のようには岸の樹木を支柱として利用した場合、樹皮を損傷させる恐れが

あるためであり、環境保全と安全管理を両立させ、生態系への配慮を意図したものである。

冬季の北海道周辺海域は、地域によって大きく異なる特性を持つ。太平洋側は冷たい季節風の影響を受けつつも海況は比較的安定する一方、日本海側は強い季節風と低水温により高波・荒天が頻発するという対照的な特徴を示す。これが流水の浮かぶ海域となれば、状況はさらに厳しさを増す。

## 低体温と溺死

こうした極低温の水域では、低体温症(ハイポサーミア)による意識喪失や、運動能力の低下に伴う溺死の危険性が短時間で急速に高まる。そのため、これら北方海域の過酷な地域特性を網羅した保命要領の習得は、千歳基地の操縦者にとって不可欠な訓練項目である。

## 第2航空団司令が率先

訓練には、昨年8月に着任した第2航空団司令・渡邊正人空将補も参加した。航空救難員による荒天作下、司令自ら救命浮舟



## 12時間の漂流

現場では、昭和40年10月19日18時55分頃、襟裳沖で航空自衛隊のF-104Jと米軍のT-33が空中衝突して、F-104Jから脱出した操縦者が、約12時間漂流した後に、巡視船に救助された出来事が話題となった。

「一度眠ったら、二度と目が覚めないぞ」と自分に言い聞かせ、眠らないように一晩中ボートの中で手足を動かし続け、摩擦と運動で体温を落とさないようにしたという話を、若い頃に本人から聞いた記憶が蘇り、生き抜くためには装備品を使いこなす知恵と精神力が最も大切だと再認識した。

基地外の河川を利用して行われるこの冬季水上保命訓練は、全国の基地の中でも千歳基地独自の取り組みとして定着している。訓練場所や手法は変化したがる、過酷な状況下での生存を目指す目的は、今も変わらず引き継がれている。

## 訓練の独自性

